二〇二一年四月一〇日

聖書カバー娘らに縫ふ春灯下　む　べ
春灯下忿怒やはらぐ不動尊　菜　々
春眠をやめて遊べと猫パンチ　かかし
春陰や土偶の四股のどこか欠け　凡　士
杣小屋の板戸を塞ぐ蔦芽かな　素　秀
雪解風法衣はためく墓所　愛　正
老いたれば子に従ひて桜狩　せいじ
落花巻上げて駈け行くツーリング　よう子
靴跡も轍も消して田水張る　なつき
彩窓のクルス貫く春日かな　む　べ
リハビリの予定を超へし花堤　かかし
仏壇の太陽のごと土佐文旦　うつぎ
葉ごと食ぶ祖母の流儀や桜餅　む　べ
馬の背に動くともなき春の雲　わかば
夕遍路岬の艀に急ぎ足　素　秀

名も歳も忘れし人や花は葉に　む　べ
シャンソンは別れの歌よ花ミモザ　よし子
花見してしばし煩悩封じけり　宏　虎
朱の橋の袂に岐かれ花の道　小　袖
山峡を処処に彩る桜かな　わかば
花の寺極彩色の天井絵　はく子
花吹雪く旧参道に朽ちし茶屋　うつぎ
日暮まで解けぬ数独万愚節　よし子
黙々と漁網繕ひ老い長閑　こすもす
養花天伏し目に祈るマリア像　はく子
潮吹の岬を染めたる浜大根　素　秀
長堤を埋め尽くして花の雲　せいじ
池半分占めて犇めく花筏　こすもす

毎週句会秀句・みのる選・二〇二一年四月一一日